

# 平成 22 年度病害虫発生予察指導情報

## 対象病害虫：イネ・トビイロウンカ（No. 2）

平成 22 年 9 月 3 日  
鳥取県病害虫防除所

### 1 情報の内容

8 月 31 日現在、中部～西部の平坦部を中心にトビイロウンカの発生が平年よりやや多くなっています。今後、中生～晩生品種栽培ほ場では密度が急増し、本種による坪枯れの発生が懸念されますので、注意が必要です。

### 2 発生状況

- (1) 8 月 31 日現在、ウンカ類調査定点 8 地点（東部 3 地点、中部 2 地点、西部 3 地点）における発生ほ場率は 35.0%、1 株当たり平均成幼虫数は 0.4 頭で平年よりやや多い発生であった。
- (2) 発生の主体は中齢～老齢幼虫及び成虫であった。また、本年は増殖率の高い短翅成虫の割合が多い。
- (3) 現在、要防除水準（成幼虫数 10 頭/株）を超えているほ場は認められていない。

### 3 今後の発生予想

- (1) 向こう 1 か月の気象予報によると、気温は平年より高く、晴れの日が多いと予想されており、本種の発生に好適な条件が続くと見込まれる。また、短翅成虫率も高いことから、今後、中生～晩生品種栽培ほ場では、本種の密度が急激に増加すると予想される。
- (2) 防除適期にあたる次世代幼虫の発生盛期は 9 月第 2～3 半旬頃と予想される。

### 4 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫の発生は地域間差及びほ場間差が大きいため、各ほ場における生息密度に注意する。
- (2) 沿岸部及び平坦部のウンカ類常発地において、出穂前後の防除を行っていない中生～晩生品種栽培ほ場では、坪枯れの発生が懸念されるので、防除適期（9 月第 2～3 半旬頃）に病害虫防除指針を参考にして、粉剤、水和剤などで防除を行う。なお、要防除水準は、成幼虫数 10 頭/株である。
- (3) 防除の際、本種の生息場所である株元に農薬が十分かかるように注意する。また、農薬散布の収穫前日数に注意し、使用基準を遵守する。